

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：湯日自治会

開催場所：初倉西部ふれあいセンター

開催日時：平成 29 年 1 月 18 日（水）19 時 00 分～20 時 42 分

参加者：自治会側【地域住民の方 39 人】

市側【染谷市長、高木副市長、牛尾理事、今村こども未来部長、大村都市基盤部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、小玉初倉公民館長】

内 容

### ① 榛葉自治会長あいさつ

- ・今年 1 年始まったばかりだが、今日は元気に集まっていたきありがとうございます。
- ・湯日では猪が悪さをしている。自治会でも心配していたところ、谷田川報徳社様から捕獲用の檻を寄贈していただいた。各町内に 1 台ずつ設置している。
- ・吹木で 2 匹目の猪が罠に掛かった。各町内で勉強して罠の掛け方等を勉強すれば、もっと猪が取れるのではないか。
- ・猪により農作物に被害が及ぶ。今のうちに捕獲すれば被害も少なくなると思っている。
- ・湯日にも少子高齢化の波が押し寄せており、皆さんが心配しているところ。
- ・高齢化が進み、世代交代や農業の後継者問題等、色々問題がある。今晚はそのような問題が質問として出るかもしれないが、市長からアドバイスをいただきたい。

### ② 市長からの市政報告

#### ■はじめに

- ・地域のことを一生懸命考えてくれて、湯日の皆さんには感謝している。例えば、湯日小学校の子ども達を初倉南小学校の放課後児童クラブへ送迎することについて、湯日の方々からローテーションを組んで送りだけならできると言ってくださり、市はガソリン代程度でお言葉に甘え、子どもを送っていただいている。
- ・初倉西部ふれあいセンターでは、放課後の子ども達を週何回か見ていただいている。子ども達が館内を走り回り元気だと聞いている。
- ・秋祭りの行事等の様々なことで、湯日の方々自分たちの地域を良くしたい、ここに若い人たちが住んでもらいたい、自分にできることは何でもしようという想いが溢れている地域だと思っている。
- ・これから島田市が目指すまちづくりの 1 つのモデルが、この地域にあると思っている。
- ・ここで色々な取り組みをしていることは、市内全域、県内にも発信できるように取り組みをしていただいていると思っている。

・昨日、第1回自治会サミットを開催した。そこで言っていたことは、地域づくりのテーマは「文化の向上と子ども」だった。文化的な素養を地域の中で、また、子どもをテーマとしたまちづくりをすることが、地域を盛り上げていく切り口になるという話をされていた。目配り、気配り、心配り、常に笑顔を絶やさず、フルネームで名前を呼ぶことが信頼してもらうために大事なことだという話だった。地域の活動は焦ってはいけない。慌てるな、急ぐな、近道をするなということも言っていた。島田市の本気度が試される話の内容だったと思う。

・昔、地域には青年団・婦人会・消防団・老人会・子ども会等の色々な会があり、自治会の活動の隙間を埋める活動を様々にしてくれていたと思う。青年団や婦人会は島田の中にほとんど無くなってしまった。その代わりがNPO活動やスポーツ少年団、地域の子どもの達を見る活動をしているボランティア団体、そのような方々が地域の教育力や地域力をつくる根っ子として働いていただいているとあって深く感謝している。

#### ■湯日自治会の人口、世帯について

・湯日自治会の平成28年12月31日現在の世帯数は348世帯、人口は1,044人で、高齢者人口(65歳以上)は343人、高齢化率は32.9%。市の平均が29.6%。3ポイント高いが、市内でも4割、5割の地域もあるので平均的などころ。15歳以下の人口は95人、人口に占める割合は9.1%。市の平均は13.7%なので4ポイント少ない。この地域に若い方が住んでいただけるようにするには、どうしたら良いかが大きなテーマだと思う。

#### ■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・島田に限らず、日本中が今、人口減少で大変苦しんでいる。これまでのまちづくりや行政の考え方では立ち行かなくなってきた。
- ・島田市は、このままでは2040年に人口が約8万人になる統計が出ている。人口が減るだけでなく高齢化率が上がり、2025年には団塊の世代が後期高齢者になる。
- ・今は後期高齢者という言葉があるが、国は老人を75歳以上にする考えがある。65歳から75歳までは支える側になってもらいたいと国は考えており、そうしなければ、医療費等が追い付かなくなると考え始めている。
- ・そうした中、高齢化していくということは、医療、介護、福祉の経費は増えていく。例えば高額な薬は、C型肝炎の薬が3か月で720万円、ガン新薬が年間3,500万円。しかし、皆さんは月2万円を負担すれば、残りは保険が負担してくれる。どんどん医療費がかさんでいくし、国は薬局で売っている薬を年間2万円以上購入すれば、医療費の控除対象とする新しい施策を打ち出したり、医療費を抑制しようとしている。
- ・高齢化していくということは、働く人が少なくなるため市の収入が少しずつ減っていく。今、6割強の人が働いて税金を納めてくれるが、2040年には約5割しか生産年齢人口がいなくなる。2010年と2020年の比較で約8億5千万円税収が減ると試算がある。
- ・一方で、元気に長生きしていただく施策や子育て、教育にも特色を付けていかないと選ばれるまちにならない。
- ・賢く選択して使っていく。そういう時代が変わってきていることを皆さんに知ってもらいたい。
- ・起債(借金)をすれば色々造れるが、それをやり続けると、将来の子どもに借金や負担を残すことになってしまう。

- ・世代間で公平に分かち合う学校・市役所・病院は、将来の人にも負担してもらわなければならないが、将来の人が自分でやりたいことができる財力がないと、若い人が選んでくれないと思う。
- ・必要なものにはお金をかけ、地域の皆さんと協力しながらまちをつくっていかないと、皆さんが安心・満足して暮らせるまちはつukれない。
- ・国の借金は、国民一人当たり 837 万円。島田の借金は、市民一人当たり約 50 万円。この 2 年間で起債残高は 17 億円減らし、基金は 20 億円増やし約 125 億円までになった。貯めるのが趣味ではない、これから投資しなければならないものがたくさんあるため、必要なものにお金を使う準備段階をしてきた。
- ・一つは病院。新病院は基本設計ができた。東京オリンピックに重なるので人件費や資材が高騰したらどうするのか心配されたが、基本計画 247 億円を下回るものと考えている。
- ・病院が平成 32 年度に開院する。現施設が老朽化しており、医療機器を最新のものに揃えれば患者にとってより良い病院となる。医師を確保するためにも大事なことだと思う。平成 19 年頃にも病院計画はあった。二転三転する中で出来なかったものが完成の目途が見えてきた。
- ・二つ目は、金谷インターチェンジ周辺の 84 ヘクタールを農振除外して、稼ぐ拠点をつくらうとしている。84 ヘクタールを一度に都市的土地利用に転換できるか心配されたが、目途が立ってきた。
- ・そこには、国道 473 号と新東名高速下に J A ・大鐵・ネクスコ・島田市の連携で賑わい交流拠点をつくって、人を呼び込む施策をやっていく。
- ・旧金谷中学校跡地は、事業コンペ・有識者会議をして、事業計画の方針まで出ている。全国から跡地を使ってどのような事業提案ができるかコンペをして、幾つもの企業から手を上げていただき、どれが一番適当なのか話をさせていただいている。
- ・小中学校は、高度成長期に一度に造った。昭和 58 年には小学校 6 校・中学校 1 校・プラザおおりを造った。一度に造ったため、今度は一度に老朽化している。新しい教育施設の整備も待たなしとなっている。
- ・島田市は、276 施設 663 棟の公共施設を持っている。これからの 40 年間で維持・管理・更新に 2,515 億円掛かる試算。長寿命化を図った場合でも 1,828 億円掛かる。全体では、これから 40 年間に約 2 割の公共施設をカットする話になった。
- ・公共施設も統合して機能を高めていくような施策をしなければならない。その一つが、初倉地域総合センターを今までは社会教育施設として公民館の使い方をしていたが、行政と初倉地域の窓口として正規職員を置いた。皆さんと市役所を繋ぐ懸け橋として置いた。機能を高める使い方を公共施設もしていかなければならない。
- ・昨日、六合（道悦）で道悦島応援隊が発足した。1 時間利用券 500 円と 150 円のチケットがあり、お年寄りが軽作業が大変なとき 1 回 500 円で地域の方に助けてもらう。ゴミ出し 1 回 150 円。これを地区社協で実施して、500 円のうち 400 円が手伝った人、100 円は事務費として使う。ゴミ出し券は 150 円のうち 100 円が手伝った人、50 円が事務費として使う。六合地域全体に広げたいと意気込んでいた。新しい互助の精神、皆で地域課題を解決しようと呼び出したやり方の一つと思う。

**■蓬萊橋周辺整備等について**

- ・蓬萊橋は年間 12 万人余のお客様が来るが、お金を使ってくれる場所が無いと言われ続けてきた。国土交通省の河川敷占有許可が必要で、勝手に物を造ることができなかった。今の番小屋も水防小屋として許可を得た。
- ・川まちづくりミズベリング協議会をつくり協議を重ねた結果、お休み処、トイレや観光案内所等を造る許可を得た、平成 29 年度の地方創生補助金を活用して、今年秋には施設が出来てくる。
- ・河川敷の下の段にも、花壇やオープンスペース等を用意し、蓬萊橋から博物館までの河川敷を活用し、また、大井川右岸側も順次整備をしていく方針。

**■鳥獣被害対策について**

- ・吹木で捕獲した猪の写真を見たが、処理をするのが大変だと思った。耕作意欲を失わせるほどの鳥獣被害が出ている。
- ・12 月には市内でサルの被害が出ていたが、職員がパトロールをして 1 月になって捕獲できた。
- ・この対策は市町が対応することになっているが、県が力を入れてくれないと困る。猪には市町は関係無い。捕まった場所が島田市なので、島田が補助金を交付している。
- ・島田市では、狩猟期間以外（3 月～10 月）に猪一頭 18,000 円（島田市 10,000 円・国 8,000 円）の補助金を交付している。
- ・他市町は、狩猟期間（11 月～2 月）は補助金無しだが、島田市はその期間も一頭当たり 3,000 円を交付している。
- ・平成 29 年度予算には、狩猟免許を取るための補助金を新たに計上している。
- ・電気柵についても、以前は一件 20,000 円の補助だったが、現在 50,000 円の補助金が出るので活用をしてほしい。
- ・人間と獣のせめぎあい。大きな対策を打っていかないとならない。平成 29 年度は国に更なるお願いをしており、静岡県を対象として鳥獣被害対策をしていただけることを国会議員からも話を聞いている。
- ・猪肉については、ジビエ（狩猟により捕獲された鳥獣）料理にするため売り出したいと検討したが、採算に合うためにはグラム 600 円するので難しい。観光と合わせてジビエ料理を出すようであれば、採算を合わせるのが大変難しい。寄生虫がいてはダメ等の色々な規制があり、獲れた量の 10 分の 1 しか売れる肉にならない。ジビエを広域でやることを考えているが、市単独の実施は難しい。県や広域で考えることが課題の一つ。JA を交えて広域での話をしたい。

**■初倉地域の基盤整備について**

- ・色尾大柳線、谷口中河線の整備を進めている。国の補助金が予定通り付かないと遅れる可能性はあるが、今の計画では、平成 31 年頃には両道路の交差点に直径 31m のラウンドアバウト（信号機が無い環状交差点）が島田市で初めて整備される。
- ・はばたき橋から直線で来て南原の山に当たる所は、昔からトンネルを掘って空港アクセス道路にという話もあった。トンネルは難しいことから稜線を越

える空港アクセス道路ができる。県の事業として実施するが、平成30年代の半ばには整備できるのではないかな。

- ・道路が新しくなることで、初倉地域は更なる発展が見込まれる。
- ・人口が増えているのは、初倉地域と六合地域だけ。六合東小学校では教室が足りない状況。
- ・幼稚園については吉田町から通ってくる子が多く、幼稚園の入園受付に親が並ぶことがおきている。
- ・この兆しを初倉全体の発展に繋げていきたい。湯日地域の皆さんの取り組みは、安全安心に住み続けられ、地域の見守りの目が働く環境にある。
- ・新しく家を建てる土地が無いと言われており、大きな課題であることは承知しているが、今後の学校のあり方等も含めて考えると、若い人が入ってくる手立てをしていかないとならないと思う。
- ・初倉の発展のために工業団地を造りたい。中河に東中瀬工業団地を整備していきたいが、用地交渉が上手くいっていない。半分だけでも先にやりたい。進出したい企業はある。雇用を増やすためにも、企業を誘致する施策をしていきたい。
- ・初倉地域の最寄り駅であるJR六合駅の整備を平成28年度から始めている。数年かけて、トイレやロータリー等の駅南口の整備を進めていく。

#### ■市役所の周辺整備について

- ・今月初めに記者会見をしたが、市民会館・市役所・プラザおおるり・駐車場・中央小公園（計34,000㎡）の整備について検討委員会を立ち上げた。
- ・課題は、市民会館の機能をどのように再生するのか、築55年の市役所をどうするのか。築35年のプラザおおるりと市民会館を新しくする場合には機能が重なってしまう。いつ、どのように再編するのか方針を出し、平成30年度から始まる総合計画に載せていく。
- ・病院の目処が立つまではと思っていたが、当初予算内で済む見当がついたので市役所周辺も整備していきたい。

#### ■みどり幼稚園の跡地利用について

- ・みどり幼稚園の跡地については、先日開催した月坂の車座トークでは公園を整備してほしいという話があった。
- ・県道と幼稚園跡地との間には家庭菜園がある。県道と跡地が隣接していれば土地の使い勝手も良いが、市は目的無しに民有地を買うことができない。
- ・跡地に何を造るか色々考えてきたが、はじめは初倉消防署の移転場所と考えた。しかし、消防署は耐震補強をしたため移転はしない。
- ・初倉の中心になる場所であるため、道の駅という意見もあるが、金谷の賑わい交流拠点整備や金谷中学校跡地の整備にも関連してくる。機能が重複するものができて仕方が無い。皆さんの意見を聞きたいと思う。
- ・地盤が悪いから幼稚園が移転したので、高層の大きなものを造れる場所ではない。

#### ■農業振興について

- ・震災後の風評被害等が無くなれば茶葉の価格が持ち直すと思っていたが、良いお茶ができて価格が上がらなかった。現状を見ると日本茶離れが進んで

いる。家庭でお茶を飲む人が減っている。若い人の家には急須が無い、会社のお茶出しの習慣もなくなって消費量が落ち込んでいる。

- ・新茶の争いをしたら鹿児島には勝てない。品質で勝負することを考えていかなければならない。
- ・生産者の高齢化と後継者不足も要因の一つ。
- ・耕作放棄地が増えている。放棄地の対策をするために専門職員1人を配置している。
- ・生産支援だけでなく、販売支援をしていかないとならない。平成29年度は、販売対策として専門職員を別に配置してお茶の振興を図りたい。振興を専門とする部署を農林課内に新たに設けていく方針。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■コミュニティバスについて 中講と吹木地区まで延伸してほしい。</p>	<p>●高齢化してくると移動手段が無いと、たくさんの意見をいただいている。湯日はコミバスが走っているが、初倉地域内でも走っていないところがある。</p> <p>コミバスの利用状況について調べた。コミバスに年間約2億4,000万円の経費をかけている。バスを定期的に利用しているのは3,400人。一人当たり70,600円となる。年数回利用している人は勿論いるが、定期的に利用している人が3,400人。例えば、ゴミ収集には年間約14億の経費をかけている。10万人で割ると一人当たり約14,000円。コミバスに4,5億円を掛けて隅々まで走らせる福祉的意見もあるが、皆で使うことが広がっていかないと増やせないのも事実。</p> <p>北部では、車両、保険、ガソリン代、場合により人件費を支援するので、地域の中で皆さんが必要な路線をつくって、地域の中で回してもらえないか話をしている。地域内に足を走らせるという意味では車を出すことを市は考えているので、地域の中で考慮していただけたらと思う。</p>
2-1	<p>■湯日の住宅地問題について 湯日小学校には、湯日地区以外から来ている子どもが6人位いる。6分の1の数である。 何故子ども達が減ったのか調べたところ、結婚していない人が多いこ</p>	<p>●白地がどのくらいあるのか、子どもが家を建てられなくて外に出なければならぬ話を聞いているので、湯日地区にとっては住宅が供給できる土地が課題だと承知している。</p>

	<p>とが要因ではないか。</p> <p>結婚すれば子どもが増えていく、湯日に住んでもらうためにどうしたらいいか。湯日は住みやすい地域ということをアピールしているが、そのためには住む場所の確保が必要なので何とかしてほしい。</p> <p>原の平に、寺の地所を利用して住んでいる世帯が10軒あったが、出てしまい5、6件残っている。宅地が山林になっている。もう一度転用して宅地化できると思う。湯日にも探せば無いわけではない。</p>	
<p>2-2</p>	<p>■他地域に住んでいる若い人がいて、ここに戻るには今の時代のニーズから若い人も家が欲しいということもある。</p> <p>農地転用をもう少し楽にしていればという意見がある。</p>	<p>●島田だけではないが、生涯未婚率が男性で2割を超えている。女性もその半分位。初婚年齢も男性30歳、女性が29歳位。子どもを3、4人と産めない。社会全体が働き方や結婚観、結婚しても働き続けられる環境を整えていかないと子どもが増えない。単独の自治体の施策では難しい。</p> <p>ただ、そうした中でも「子育てをするなら島田市」と思っただけの施策ということで、きめ細かな対応をしている。特色ある教育について考えており、湯日小学校も一輪車や地域をあげての運動会や様々な自然の実り、学校に対して地元が応援してくれている地域であるため恵まれている。しかし、一方でアクティブラーニングとあって、それぞれの意見を言い合って黙って授業を聞くことはしていない。多様な価値観に触れるという意味では、ある程度の人数がいた方が良かったか、部活動をやりたいとか様々な理由の中で湯日から出て行く人がいると聞いた。それが本当かどうか分からないが、逆に今の環境をアピールして、ここに入ってきてもらうために出来ることを考えないといけない。</p> <p>湯日は婚活を一生懸命やってくれている。家から出られなかった方が出てきた話を聞いた。島田市全体でも「おせっかい人養成講座」を実施して、おせっかい人がボランティアでお見合いを熱心にやってくれている。初倉からも何人か活動をしていただいている。</p> <p>結婚できる環境と住める場所、働く所が揃っていないと若い人が来ない。島田市がターゲットとして狙うのは、子どもを持つ子育て世代に移り</p>

		<p>住んでいただけるまち。学生や単身者には、島田は住みやすいけれども遊ぶ所が無いかもしれない。しかし、結婚して子どもを育てはじめる人にとっては、安全な環境、安心できる場所、地域の教育力、子育てや教育の環境という意味では選ばれるまちだと思うので、子育て世代に向けた施策を実施していきたいと思う。</p>
<p>3-1</p>	<p>■お茶の普及について 子ども達にお茶の入れ方を教えている。学校で指導するが、家庭には急須が無い。いくら学校で指導しても子どもが家でお茶を飲まない。親にもお茶の入れ方等を教えなければならないと思う。</p>	<p>●島田市は、お茶を飲む家庭をつくってくださいということで、婚姻届を出した方に急須と湯飲みとお茶のセットを送っている。小学校6年生にも卒業記念にJAの協力を得て急須とお茶をプレゼントしている。 お茶の知識等を競い合うT1グランプリにも取り組んでいる。お茶がこの地域の文化だと思うのは、静岡県が「緑茶の愛飲条例」をつくった。県内小中学校に緑茶を飲ませたいという知事の想い。ところが、県東部では学校や家でお茶を飲む習慣が無いことで、県教育委員会は2億円程度を使って東部の学校にお茶を飲ませようという計画を持っている。それを考えたら、島田は茶振協の皆さんが品評会に出すようなお茶を学校に提供してくれる。お茶を飲む文化はここにある。それでもなお、急須が無い、飲まなくなったと言われるので盛り返していきたい。近々、島田市緑茶化計画のコンセプトブックを皆様にも配布させていただく。島田は緑茶のまちであると、誇りを持って言えるまちづくりをしていきたい。</p>
<p>3-2</p>	<p>■大学教授等がお茶の効能を発信しているが、市でもお茶の効能をもっとPRすることが必要。掛川市の深蒸し茶が良いと聞くが、島田市でも深蒸し茶を作っている。島田市のお茶は良いことを全国規模でPRする必要がある。 パソコンを持っている経営者は企業努力で売り込んでいると思うが、市でPRしていただけたら。</p>	<p>●チョコレートが健康に良いということで、3月に島田市と横浜薬科大学の共同研究で「健康に良いチョコレート」をウエルシア全店で売り出す予定。 味は、飲むと随分違う感じがするが成分に違いが無い。一番茶、2番茶、3番茶も調べてもらったが成分的に違いがなく、川根茶、初倉茶も味わいで差があるが、大きな成分的な差はなかった。 研究の取っ掛かりは、茶工場が出る茶渋。茶渋は美味しいところの塊が層になっている。美味しいエキスが詰まっているところもったいないので、パウダー化して売れるのではないかとということで横浜薬科大学に研究</p>

		<p>を依頼したところ、チョコレートという形で島田の緑茶とコラボレーションになった。</p> <p>機能性食品も含めてお茶の可能性をやっていかなければならない。高機能食品という形で商品に混ぜ込むことはやっていきたい。</p> <p>お茶の売り方については、緑茶化計画もそうだが、台湾とベトナムで出店したが評判が良かった。3月には渋谷のロフトの1階で、島田市緑茶化計画と島田の逸品をPRしていく。</p>
<p>4</p>	<p>■猪の繁殖の抑制について</p> <p>猪の話が出ているが、猪は繁殖率が高いので薬や避妊等の繁殖を抑える方法はないか。減らさないといちごっこ、獲っても間に合わない。</p>	<p>●一回飲んで一生妊娠しなくなればいいのだが、猪が薬を食べてくれるかも問題。その問題は深刻に受け止めている。県市長会でも、この件について各市町が単独で取り組んでも難しいということで、県も一緒になって具体的な施策に取り組んでほしいと話し合いをしている。お金の補助だけでなく、減らすための施策をするということで、もう一度話をしていきたい。</p>
<p>5-1</p>	<p>■工場の誘致について</p> <p>若い人が働ける工場誘致を。金谷側だけでなく、初倉側にも欲しい。地理的なことや農地転用等の問題もあると思うが、若い人が働ける場所が初倉にもたくさん欲しい。それが島田市の力になると思うので、力を入れてほしい。</p>	<p>●長い歴史を見ると島田はお茶が良かった。皆お茶をやりたかった。そのためには農振を掛けてもらわないと、補助金が出ない、水の受益地にもなれない、お茶の良い時に一生懸命農振を掛けてもらった。その頃、農振を掛けられなかった所が、今は比較的色々な転用がやりやすい土地になっている。</p> <p>時代は流れがあり、島田もお茶でいきたいと思い、農振を受けることが島田の発展だと思いつつやってきた。だから、湯日にも若い人が家を建てる場所がないほど青地になっている。時代の巡り合わせも併せて考えながら、工業用地も開発していかなければならないと思う。</p> <p>島田吉田バイパスのナフコ付近から静岡銀行付近までの道路は、両側が田んぼで何もできない。大きな立派な道ができたのと言われる。両側は一度更地にして、基盤整備をして茶畑をつくった。基盤整備の受益地となっているため、事業完了から8年間は動かすことができない。</p> <p>はばたき橋から井口交差点まで、昔は大きな道路ができれば両脇30mが白地になれたが、今はそれもできない。</p>

		<p>市も個別案件を県と協議しながら対応するしかない。国土交通省は都市的土地利用（工場・住居）を推進しているが、一方で農林水産省は農地を守る（初倉は、農地が500ヘクタールと聞いたことがある）という矛盾した政策の中、良い方向を見つけていきたい。時代は巡るということは、これから勝負だと思っているので悲観していない。</p>
5-2	<p>■初倉地域で500ヘクタールの農地と言われたが、湯日も含んでいるか。</p>	<p>●そうだと思う。</p>
5-3	<p>■初倉地区全体は、バイパスや工場が出来て農地は減っている。初倉中心部は発展しているが、その農地面積を保つためには湯日にはこれから何も出来ないということか。</p>	<p>●簡単に農地を白地にできない。個別案件として農振除外をすることはある。5年に一度、全体の農振見直し（定期除外）があり、それに合わせて金谷インター周辺の土地利用の見直しをしている。平成29年度は5年に一度が外れるため、個別案件を見ていくことになるので農林課に相談していただくことになる。元々白地だった所は比較的簡単にできるが、青地を転用してとなると審査があるので簡単ではない。</p>
5-4	<p>■人口や子どもを増やすためには、基準を緩やかにしてほしい。ある程度青地を白地にしていけば湯日にも工場が来て、働く場所ができて住むようになる。そこで結婚して、学校に通うようになる。元が無いと湯日は今後も変わらずに行ってしまう気がする。</p>	<p>●湯日にも大きな工場があると思うが、昔は茶工場だったので工場ができた。皆さんの意見はわかるが、難しいところがある。</p> <p>斜面の茶畑等は農業を継続することが難しくなっている。そのような所を自然に戻していく。農地の規模だけを維持する時代ではなくなっている、それは国もわかっている。今後は、優良農地はしっかり守る。優良農地でない所は、山の斜面で道路が入っていけない等の事情があるので、そのことも合わせてもう一度土地利用を見ていかなければならないと思う。</p> <p>茶工場の跡地の話が出たが、何らかの形で広い規模で空く所が出てくれば、その活用もあると思う。地域の住む所と働く場所が、皆さんの一番の要望だということについてはよくわかった。</p> <p>川根でも同じ話が出ている。若い人が住む場所が無い、働く場所が無い、若い人が出て行ってしまう、アパートが無い。川根には、もう一つ医者の問題がある。高齢化して医者がいなくなってしまう課題がある。</p>

<p>6</p>	<p>■移住促進のPRについて</p> <p>地方に移住しませんかというPRを東京で開催したと聞いているが、島田はどのようなPRをしたのか。</p>	<p>●主に移住を紹介する場所として、有楽町駅前の交通会館8階「ふるさと回帰センター」に47都道府県の事務所が並んでいる。その静岡県のコーナーでお客さんに島田市の情報提供、隣にハローワークがあるため島田で働く仕事も紹介している。</p> <p>実際に年何回か、川根の方や地域おこし協力隊に現地に行ってもらい、引っ越してきた者の立場で島田の暮らしやすさのプレゼンをしてもらっている。それ以外に、移住定住で他県から来ていただく方には120万円を限度として補助金を出している。100万円は家を買う補助金、20万円は東京に通う場合等の補助金。平成28年度四半期の移住者は県内第2位だったと思う。ただ、何も知らずに島田に来て住む方は僅かで、昔転勤で来たことがある、元々の出身がこちらという方が移ってきている。</p> <p>これからは空き家が増えてくる。空き家を改造して移住してくれる方への補助制度を検討したいと思っている。</p>
<p>7</p>	<p>■工場の誘致について</p> <p>中河の工業地が賛成しない人がいるので進まないと聞いているが、通える距離ならばここに住んでみて住みやすい場所と思う。工場ばかりが来ると騒音の弊害が出るので、住みやすい地域をつくってもらいたい。</p>	<p>●何もかもは難しい。保育園が欲しいということで、保育園を建てると言えば、保育園は煩いという苦情が出る時代。</p> <p>少なくとも平成30年度までには待機児童ゼロになるように、平成29年度は新たな0～2歳児専門の保育園を造り、民間の保育園も増やしていきたいと思っている。</p> <p>放課後児童クラブも、昔は1年生で入っても2、3年生で出る方もいて、放課後児童クラブで待機児童はいなかった。ここ数年、多くの待機児童が出ている。全体では1年生の約1割しか入らなかったものが、2、3割の子どもたちが放課後児童クラブに行くようになり、6年生まで見るようになった。そうは言っても4、5年生では入れないほど一杯で、平成29年度は六合地域で高齢者施設が放課後児童クラブを実施してくれることになった。高齢者施設なので夕食を出せるということで、少し遅くまで預かれるような放課後児童クラブを始めることになった。</p> <p>初倉地域でも月坂保育園が放課後児童クラブを実施する話となった。学</p>

		<p>校だけでは収容しきれないし、空き教室だけでは対応できないところまで放課後児童クラブの課題も出てきている。</p>
8	<p>■交通結節点に活用について                  吉田インターチェンジ、牧之原インターチェンジ、金谷インターチェンジと全てが大井川の右岸。初倉地区も大井川の右岸。これを絡めた産業育成、人口増に繋がるような施策を考えてもらえたらと思う。                  県は新幹線新駅も捨てきれないようだが、今あるものを有効に活用して将来を見据えるべきだと思う。</p>	<p>●東名・新東名・国1・空港があり、これだけの交通結節点は県内トップクラス。これだけ交通の利便性が高い所はない。ところが、大規模な開発ができる余地が無い。物流も今後伸びていくことの一つだと思うので、企業誘致につけても話してみたい。                  金谷インターチェンジ周辺も全国から来たいという企業があり、把握しようとしている。                  島田の一番の売りは、大井川の豊かな水源があるということ。水質が良く、豊富な伏流水があることが、これからの地域の発展の付加価値だと思う。食品や医薬品関係の工場が金谷周辺に増えてきている。初倉にも、クノール・山本山・紀文がある。先日、初倉にも何か施設が欲しいという意見があった。一方で、島田中心部の人は、吉田インターチェンジ周辺に色々な店舗があり、道路も広いということで、島田で一番都会的なのは初倉という意見もあった。他所の人が見る目と自分達が見る目が違うと思うが、発展性があるのは間違いない。工業用地になるような大きな土地が見いだせないところもある。東中瀬は農振を除外するわけではなく、元から工業用地として指定されている場所だから開発できる。指定されている用地やこれから転用できる場所を探しながらやっていくしかない。</p>
9	<p>■空港のメリット・デメリットについて                  空港ができて、6、7年経つ。人・物・金と色々あったと思うが、島田にとってのメリット、デメリットを教えてください。</p>	<p>●空港ができて、今年の6月で7年目である。                  牧之原市も島田市も、もっと観光客が入ってくると期待していた。特に初倉はそうだと思う。空港が無ければ大きな道路はできなかったと思う。道路が通り、空港が隣接し、初倉には空港を利用する人が入ってくると思っていた。私たちは大きな期待をもっていた。しかし、空港からバスに乗ってどこかに行ってしまう。ホテルにはお客さんが泊まっている。私たちが望んでいたような経済効果がでなかったことが一番のデメリットだと思う。</p>

メリットとしては、そうは言っても空港があるということは、遠くから来ていただける静岡の玄関口としては知名度を上げている。我々が外に行くときのアクセスも良くなった。空港があるからこそ、この周辺の交通基盤が整ってきた。御前崎から国道473号で来る倉沢インターまでで行き止まりだった。倉沢インターから菊川インターまで急ピッチで整備している。菊川インターも片側インターだったところをフルインター化の工事をしている。島田金谷バイパスが4車線化するときには、大代インターは付け替えて4車線のインターになる。藤枝バイパスの4車線化が事業化された中で東光寺インターも4車線にするお願いをしている。交通結節点としての様々な機能整備が整ってきたのも、空港が核としてここにあったからだと思う。

空港新駅が一番最初からあったが宙に浮いている。知事の話では、空港直下という話になる。東京オリンピックに間に合わせるのは時間的に難しいと思う。知事は、空港新駅のメリットを防災機能と首都空港の代替、東京オリンピックの代替空港に成り得るという話をするが、プラス地域振興にどう繋がっていくのかビジョンを示していただかないと。もし空港新駅ができた場合には、地元負担金が求められる。それを島田市が負担してまで空港新駅をつくるという話になれば、当然それがこの地域の地域振興に大きくつながっていくという夢が描けての話だと思うし、そのところが宙に浮いているところがデメリットと思う。

最近もシンガポールの情報誌が大井川周辺を特集してくれた。シンガポールから観光課に連絡がきている、それもメリット。

我々が思い描いたような経済効果は生まれなかったが、他所にできるよりはここにできたことの波及効果はあったと思う。平成31年度頃には、新しいターミナル（国内ターミナル）ができる。現ターミナルは国際ターミナルとして、1.5倍の広さになると聞いている。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

